会 議 記 録			
会 議 の 名 称	決算特別分科会 総務文教分科会		会議場所 第3委員会室
			担当職員 藤村
日 時	平成24年9月21日(金)	開 議 午後 1 時 00分	
		閉 議 午後 4 時 47分	
出席委員	堤 齊藤 並河 中村 田中 西村 日高 木曾 石野		
執行機関出席者	辻田教育部長 中川教育部次長 福井教育総務課長 山本学校教育課長 国府教育研究所副所長 黒川文化資料館長 玉記人権教育課長 樋口社会教育課長 高屋図書館長 小西学校給食センター所長 石田教育総務課副課長		
傍聴	☒ 可・否	市民 0名	報道関係者 0名 議員 3名

会 議 の 概 要

- 1 堤委員長 あいさつ 開議
- 2 事務局日程説明

< 堤委員長 >

午前中の現地視察で亀中を視察した。決算審査に直接かかわるものではないが、今回提案されている契約変更について、議決前にすでに工事が進められていた。工期の問題等いろいろあったと思うがどういう判断でこうなったのか、本日の決算審査に入る前にそのあたりの説明をされたい。総務文教常任委員会では採決したが、全体に関わる問題である。

< 教育部長 >

亀中の耐震補強工事については、昨年6月に議決いただき、H24.1月から今回の契約変更をお願いしている部分の工事をしてきた。昨日説明させていただいた通り、躯体に修復を必要とする部分が工事の都度に出てきたのが実態である。耐震補強という本来の趣旨からそのまま放置できるものではなかったため、それぞれ施工管理の中で必要な対策を取りながら工事を進めてきた。本来議決事項であるので金額の変更があった時は速やかに議会の議決を得ることは承知をしており、その予定をしていた。ただ、次から次へとそういう事象が出てきたため金額が一定確定した段階で思っていたのが実際である。今回、60%という進捗状態の中で今後の工事も睨み合わせ金額変更が出てきたので議決をお願いするものである。議会軽視などとは一切思っていないし、耐震補強という本来の趣旨から必要な対策を取っていくのが行政の役割であるとの思いから執行させていただいた。変更契約議案の提案が遅くなったことについては大変申し訳なく思っている。これまで、こういう事態が生じていることを総務文教常任委員会の皆様にお伝えできていなかったことは反省している。今年度、案件は違えども度々月例会に出席していた折にお伝えすべきであったと反省している。工事を中断してということは工期、請負業者等の損害等いろいろな問題が出てくることも考えられるのでその時々に合わせて適切な工事処理を行ってきた積み重ねの結果が契約金額の変更になったことを何とぞご理解いただきたい。

< 堤委員長 >

ただ今の教育部長の説明を聞いて、何か意見があれば。

<木曾委員>

第6号議案は全員一致で賛成した。委員会の採決はそれでよかったかどうかも一度全員に確認した方がいいのでは。

<堤委員長>

皆の意見を聞く。何か意見があれば出されたい。

<日高委員>

ほとんど90%近く終わっているようなことを言われていたので、議会軽視かとも思ったり、工事の進捗状況から見てやむを得ないのかとも思う。

<並河委員>

授業をしながら工事が始まったという点ではやむを得ない部分もあるかと思うが、一般的には見積もりによって発注したからにはその中でやっていくのが民間の考え方であるので追加で出たという点については事前に誠意が感じられる対応をしてもらえればよかった。学校施設のことなので早く完成して子供たちが快適な環境で学習できるようにしてもらうことが大事であるが、議会と行政の立場の違いの中で何か欠けていたのかと思う。

<田中委員>

第6号議案の審査もあれだけ時間をかけて質問もし議論してきた。それ以前に今教育部長が言われた内容できっちり説明がなされていけば仕方ないということになるが、今回の件は気分感情からも理解しがたい。今日、現場に行っていなければそのままである。契約案件の審査時にも甘く見ているのではないかということ指摘した。わかったとは言えない。考える。

<木曾委員>

非常に残念である。第6号議案は市長から議会が提案を受けた。それが3ヶ月前に分かっていてももう終わっている。議案として挙がってくること自体が間違い。できるのならその範囲の中ですればよかった。理事者もこのことは知っているのか。教育長はどうか。議会軽視というよりもこれからの議会との関係も含めて信頼関係が揺らぐようなことをしてしまうのは非常に残念。

<中村委員>

常任委員会で説明を聞いて委員会として全会一致で賛成したが、今日の現場を見てあまりにもまずいのではないかというのが正直な気持ち。先日、建築住宅課長にも出席いただき、もしこの議案を否決した場合はどうなるのかという話が出た時に、既決契約内で実施すると答えられたことは非常に残念であった。我々も真剣に審査しており、子供たちのためになんとしてでも理解を求めると言ってほしかった。残念である。少し考えたい。

<石野委員>

本日の視察で補修箇所を確認しようと思っていたが、全部終わっていた。議案審査の時の一連の担当課の対応を遺憾に思う。

<西村委員>

当初2,600万円ほどかけて設計している。その設計の基づいて工事金額が出ている。その設計がもともとなんであったのか。今回これだけの金額の変更が出たことは当初の設計にも問題があるし、発注側にも細かい点をチェックしなかったことも根本的に問題。どんな工事でもそうだが、最初の設計で行く。転変地変等のよっぽどの理由がなければ契約金額は基本的に変更しない。それを安易に金額変更することは問題がある。契約検査課の話も聞きたいところである。先日は賛成したが考え直す必要

がある。

< 齊藤副委員長 >

今出た意見のとおりである。授業中であるので天井をはがして等の見積もりができなかったということであるが、土日もあるし、毎日使っていない教室もあるので詳しい事前検査は出来るはずである。そういう瑕疵があり、どうしても増額ということなら事前に報告をしておくほうがいい。現場へ行ったら全部終わっていたというのでは何しに行ったのかわからない。心情的なものもある。話をしていただきたい。

< 堤委員長 >

各委員の意見、考え方を聞かせていただいた。委員長としてもこれで契約するとしたものについて、様々な理由で変更が必要になった場合はそのプロセスにおいて、専決範囲ならいいが議会の議決を要するものは、月例会等の機会にお互い報告したり、提言したりするのが本来であると思う。第6号議案審査時に現場へ行って、すでに出来上がっていたなら通るはずがなかった。内容的に誰も反対するものではないが、責任をもって議決してきた議会、特に総務文教常任委員長としても責任があり整理したい。委員会として賛成したが、本会議ではまだでありどうなるかわからない。決算審査後にでももう一度整理したい。

< 教育部長 >

今ご指摘いただいた点は重く受け止めたい。月例会等の場で報告すべきであったと反省している。ただ、耐震補強という本来の目的を達成するため進めてきたものが結果としてこのような大きな金額になった。契約金額を精査して今回の変更議案を提案させていただいたので、決して議会に隠してという意図は全くなかったのもそれだけご理解賜りたい。

< 堤委員長 >

この件についてはここまでとする。

～ 13 : 27

3 付託議案審査

(1) 第9号議案 平成23年度一般会計決算認定について

< 教育部 >

各課長 決算に関する主要施策報告書に基づき、順次説明(歳出)

(給食センター管理費 ～)

～ 13 : 46

< 質疑 >

< 日高委員 >

P204、205、給食関係、この5年間で500人ほど児童数が減っているが委託経費に変更はないのか。材料費は保護者負担と聞いており、負担軽減のため地産地消に努められていると聞くがそのあたりの流れはどうか。

< 学校給食センター所長 >

以前6,000食であったものが500人減ると5,500食になるが従事する職員数は変わらないため委託料はほぼ同額である。材料費は1食あたり240円。

< 日高委員 >

材料費購入の流れは。

< 学校給食センター所長 >

米飯は業者が炊飯し各学校に直送。亀岡産キヌヒカリを100%使用。牛乳は八木町の業者が直送。副食の材料は給食センターで見積もり合わせを行い、安価かつ製品の確実なものを選定している。地産地消の観点から亀岡産の物を多く使いたいブランドのため他の生産地の物より割高になっている。亀岡産中心に選定しているが2割を超えて割高になると安価なものを選んでいる。

< 並河委員 >

P189、労働費緊急雇用創出事業経費、P195、P207施設修繕費について、この中で小規模修繕工事にどれだけ発注したか。職種は。今後の考え方は。

P209、要保護・準要保護生徒援助費について、亀岡市は基準が生活保護の1.5倍未満ということだが、今年度基準が変わったことによる考え方は。

< 教育総務課長 >

緊急雇用についてはシルバー人材センター等に委託しているのでここでの活用についてはわからない。小学校費、中学校費の施設修繕における実績は8件、585,480円を発注。主には工務店関係で外構や手すり、屋上、屋根の修繕等外装部分をお願いしている。今後もこの制度ができた趣旨を踏まえ、できるだけ地元の小規模業者に発注できるよう取り組んでいきたいと考えている。ただ、現在、ほとんど市内業者に発注しているが緊急対応が必要な水道関係、電気設備関係が非常に多く、小規模登録業者に発注できる仕事が少ないことをご理解願う。

< 学校教育課長 >

就学援助の基準は、準要保護の判断は国に明確な基準がなく市町村の判断にゆだねられている。本市は生活保護基準額との1.5倍未満を所得金額として認定しているが、従前の所得基準は公務員等にも認定される基準であったことから他市の状況を参考にしながら認定要領に基づく認定要件の適正な運用に努めるため24年度から基準を見直した。

< 並河委員 >

非常に少ない実績。地元の業者でもいろんな仕事ができるので広報も含めて積極的に仕事を出してほしい。いろいろな要望が出され仕事はあると思うが見直し作業はされないか。

就学援助については学校により格差があり、受けてほしくない雰囲気のある学校もあると聞く。教委はどのように周知しているのか。

< 教育総務課長 >

教職員組合からも具体的な要望も増えており、学校を通じても多く要望を聞いている。すべての要望に応えられていないのが現状だが緊急度を見極めて順番に実施している。電気、ガス、水道関係、情報関係のものが修繕の主な内容だが、緊急の対応を要する事案が多く小規模登録業者と合致しないものが多いが工夫して行きたい。

< 学校教育課長 >

保護者が学校長を通じて申請書を教育委員会に提出する流れになっている。周知は就学前健康診断時、また担任が家庭訪問する時に必要と思われる児童に紹介している。市のホームページにも掲載している。

< 教育部次長 >

家庭訪問等々学校と連携して周知している。

< 並河委員 >

入学時だけでなく、毎年周知してほしい。周知されていない実情はある。

< 西村委員 >

P 1 9 4、教師用教科書及び指導書購入代が学校図書費の5倍ほどかかっている。手前持ちの考えにならないか。

P 2 0 5、給食の複式献立とは。そのメリットは。他市ではなぜできていないのか。

< 学校教育課長 >

4年ごとに教科書が変わるので教師に必要として購入し配付したもの。

< 学校給食センター所長 >

材料の調達から調理まで全く別の機器を用い、別のルートで給食を作るもの。メリットは万一の時のリスクの分散が図れる。

< 西村委員 >

手前持ちについては。

< 教育部次長 >

教師用の指導書は非常に高価なもので1冊1万円強かかる。教師個人が9教科そろえとなると負担が大きい。ご理解いただきたい。

< 西村委員 >

学校図書の全体購入費の5倍というのが気になる。他の職業でも道具は自前。そういう考えにならないかという一つの思いである。答弁はしない。

< 日高委員 >

P 2 1 2、通学安全経費、スクールバス運行委託費について、育親中学校は68人で15,888,000円、一人当たり年間約233,000円になる。大型バスが3台で、3年生は10分ほど遅れて3台目のバスが来ているが、バスは空いている。スクールバスの30分ほど前に千代川行と運動公園行のふるさとバスが通るがそれも乗客は少ない。来年度児童がもっと減るとふるさとバス2台とスクールバス1台ぐらいでいいのではないか。ほとんど乗っていない。来年度はどのように予算要望する予定か。

< 学校教育課長 >

現状、育親中学校は1学年1台ということで京阪京都交通にお願いしているがバス会社には小型バスがなく大型バスを運行しているので記載のとおり高額となっている。議員ご意見のふるさとバスの活用を検討していきたい。

< 日高委員 >

検討とはいつまで検討するのか。いつも検討のみ。今から検討し来年度の反映させなければ無駄と思う。

< 学校教育課長 >

現在、別院中学校のバスも合わせて検討しているところであり、いつまでとは言いきれない。

< 教育部長 >

ふるさとバスが利用できればいい話である。ただ、学校教育活動と登校、下校時間との組み合わせも必要であり、畑野町の子供たちが不便にならないよう現状の対応をしているところである。マイクロバスのようなものを新たに購入し他の地域も含めて対応を今検討しているが、購入にあたっては補助金の関係もあり時期は明確に答えられない。内部で検討はしている。

< 石野委員 >

P 1 9 4、P 2 0 6、小中の図書標準冊数達成率の考え方は。実際子供たちは図書館の本をどの程度利用しているのか。

P 2 0 7、中学校の施設修繕に関して篠の体育館に大きな時計があるがずっと前から狂っている。いつになったら直すのか。

<教育総務課長>

基本的には標準冊数に近づけるよう配慮し予算措置もしている。大事なことは子供たちがいかに活用するかということなので廃棄もし活用できる図書の整備を図りたい。H 2 3年度小学校では4,537冊購入、603冊寄付いただいている。612冊廃棄したので純増が4,528冊。中学校は達成率が下がっているが主な原因は標準冊数が上がったこと。購入と寄付で3,608冊、廃棄1,886冊、純増1,722冊。標準冊数達成率を上げながら活用しやすいように努めていきたい。

<教育部次長>

国語力が低下する中で読書活動の推進を図っているがゲーム等の普及で読書離れは進んでいる傾向にある。各校によって取り組みは様々で朝読書、試験の残時間読書、読書数の目標を定める等々だが、学校によって差はある。

<教育総務課長>

体育館の時計については状況を確認して対応する。

<田中委員>

P 1 9 4、P 2 0 6、用務員業務はシルバー人材センターに委託されているがその仕事の確認は誰が誰にどのようにしているのか。

P 2 0 1、小学校の情報教育について今年度の当初予算時に更新費が減額修正されましたがその後の影響は。

P 2 0 5、給食加工の委託について、予定価格の積算方法、入札方法は。

<教育総務課長>

業務確認は校長が確認し、市教委へ報告。教委を通じてシルバー人材センターと連携を取り、日々の業務を進めている。

昨年ですべての機器がリース切れになっている。現状は、授業に大きな支障が出ないように委託業者に無理を言い保守管理している。大きな影響は出ていないが処理速度が遅かったり、作品を作っている途中でおちてしまったり、新しい教材ソフトが使えない等の支障がある。

<学校給食センター所長>

予定価格は年間の作業量を算出し、そこから人員数を確定し人件費を積算している。入札方法はS 5 4年のセンター開設以来40年以上の実績を有する(株)京都共同管理と随意契約している。

<田中委員>

用務員について、校長が確認するということが本当はシルバー人材センターが確認すべき内容ではないのか。校長等が用務員に指示するということが行われているのではないかと思う。

<教育総務課長>

確認とは委託した業務の出来栄の確認を校長にさせていただいているということである。

<並河委員>

P 2 0 4、給食センターの関係で、中学校給食を希望する多くの声があり議会でも多くの議員が質問をしている。事業の目的が記されているが、今後の考えは。

<教育部長>

本会議での答弁のとおり、今のところ実施は考えていない。

<齊藤副委員長>

P 1 9 0、教育委員の報酬について、委員は年間どのぐらいの会議に出席し、何をしているのか。選出はどのようにしているのか。年齢条件はあるか。

P 1 9 7、A E Dのリース料は1 8校で何台分か。

<教育総務課長>

定例の会議は年1 5回、その他必要な事案に係る協議会、P T A等との各種懇談会、運動会、研究発表会への出席等々活動している。また、教育委員の研修会へも参加いただいている。活動点検報告書にすべての実績が記載されているのでご覧いただきたい。現在、元教員、現職の住職、保護代表で構成されており幅広い意見が反映できるようにしている。年齢は5 0 ~ 6 0代の方。

各校1台ずつ。幼稚園も1台ずつ配置。

<齊藤副委員長>

自治防災課であがっているリース料の方が安い、質が違うのか。入札しているのか。

<教育総務課長>

入札し5年リースしている。当時はまだあまり出回っておらず、台数も1 8台ということで割高であったかもしれない。今後リースの方法も検討していきたい。小学校は子供用パッドが入っているのでその分割高かと思う。

<堤委員長>

これで中学校費までの質疑を終結する。

(教育部退室)

~ 1 4 : 3 0

(休 憩)

1 4 : 4 0 ~

各課長 決算に関する主要施策報告書に基づき、順次説明(歳出、歳入一括説明)

(幼稚園費 ~)

<質疑>

<西村委員>

P 2 3 2、石田梅岩顕彰会活動補助金はどのような活動への補助か。

<社会教育課長>

公益法人化をめざして活動される初期投資として交付したもの。公認会計士を入れたり、事務員を置いたり等事務経費が要る。H 2 3のみの限定補助である。

<木曾委員>

P 2 1 6、幼稚園の統廃合についての説明がなかったが何も動きがなかったのか。

P 2 2 0、放課後児童会について、活発に実施いただいているが場所が非常に狭い。改善は考えているか。H 2 3から安詳小も東部文化センターに行っているが保護者から危ないという声が上がっている。それに対する考え方は。

P 2 3 9、元旦ロードレースについて、そろそろ元旦ではなく違う時期に開催してはどうかと何度も言ってきた。非常に忙しい年末年始に実施する必要性はあるのか。市民参加も7割ぐらいと少ない。見直してはどうか思うが考えは。

< 教育総務課長 >

H 2 3 当初、第 2 亀岡幼稚園を候補地に決定し、周辺用地の調査、府の許可、国の補助金の関係で協議を進めてきた。現在幼稚園用地に隣接する土地については地権者は手放す意向がないとのことである。京都府からは現在の敷地内の建設は可能であるとの協議結果を得た。国の補助金も老朽化による建て替えということで対象となるめどが立った。H 2 4 は業者も決まり、基本設計を行っているところである。

< 社会教育課長 >

市内で 2 3 教室開設しているがそのうち 7 校がガイドラインに満たない面積。改善に向けて検討しているが予備教室がないのが現状である。しかし、そのままには出来ないの学校と協議しているところである。安詳小から東部文化センターへ行くことの危険性を指摘いただいたが、認識しており 4 月の事故以来何とか学校内での開設を目指して協議している。安詳小であれば自治会も視野に入れて検討しているが階段の改修等の必要性もある。現在、指導員、指導員補助が学校に迎えに行き移動しているが安全確保に努めたい。

ご指摘のとおり 1 2 月 3 1 日に準備し元旦に実施という慌ただし中で開催いただいているが全国から多数の参加がある。スタッフの高齢化と元旦ということで見直しの方向で体協、市陸上協会等と協議中である。1 2 月の上旬開催、ハーフマラソンの導入等含めて検討中である。市制 6 0 周年の節目の年には新しい形の開催を考えていきたいと考えている。

< 木曾委員 >

市立幼稚園の駐車場用地を地権者が売らないと言っているなら、駐車場の確保はどうするのか。他に確保できるのか。

放課後児童会について、安詳小は隣に水土里ネットの建物もあり、そこは昼間は使っていない。土地改良と連携を取ってやれるのではないか。

元旦ロードレースは大変なので全国的にやめている。だから亀岡市の大会に参加している。市民が参加しやすい時期の実施を考えるべきである。

< 教育総務課長 >

今借りている民有地を引き続き借り、駐車場として利用する。状況をみながら教職員の駐車場については考えていきたい。

< 社会教育課長 >

水土里ネットも視野に入れていたが、継続的に借りることになるのでまだあたっていなかった。含めて考えていきたい。

早い時期に考えていきたい。

< 木曾委員 >

安詳小の放課後児童会について事故が起こったら取り返しがつかない。それも踏まえて判断されたい。夕日ヶ丘の開発でまだまだ児童数は増える。それも考えて早急に対応されたい。

< 石野委員 >

歳入で市史の頒布が 6 8 冊ということだが残りはどれだけあるか。

P 2 3 4、新資料館を学園大学の中にといい声もある。考えはどうか。

P 2 4 1、キャンプ場含めて七谷川野外活動センターの利用状況は。

< 文化資料館長 >

全 8 巻で 1 7 , 0 0 0 冊刊行、H 2 3 末で 1 0 , 8 8 7 冊が売れて残りは 6 , 1 1 3 冊。全体の頒布率は 6 4 %。今後も引き続き P R していく。

今はまだ結論は出せない状況。H 2 3、2 4 で情報を整理し、学園大学のことも

踏まえて考えていきたい。

<社会教育課長>

439件、8,987人。うち市内は4,537人。

<石野委員>

市史はもっと広報して、いろんな行事の折には並べてなるべく売るようにされたい。

十分に検討されたい。

キャンプ場の利用は。

<社会教育課長>

多く利用されている。先日は施設全部を借り切ってコンサートされた。そのような多様な利用もある。

<中村委員>

P239、生涯スポーツ振興経費について、市民総体は180万円の補助金が出ているが、周年事業の時は参加が多いがそうでないときは少ないように思う。地域でも温度差がある。毎年同額か。

<社会教育課長>

毎年180万円の補助。H23の参加者950名、H22は647名、H21は849名と年度でばらつきがある。多くの市民が参加されるよう啓発に努めたい。

<田中委員>

P230、国分寺の関係で、東京の国分寺市でも後の維持管理費の大変さを言われていた。国の補助金確保に努められたい。天川遺跡と余部遺跡の発掘調査については実施してどのようなことがわかったか特徴を記載するようにされたい。

P241、七谷川野外活動センターと国際広場球技場、野鳥の森の賃借料の単価の違いはどうか。

<社会教育課長>

要望していきたい。地域の協力も得て維持管理に努めていきたい。余部、天川の遺跡発掘についてはきっちり記載していきたい。

国際広場球技場、野鳥の森の賃借料は当初の協議で高い金額になっている。ここ数年は何回か見直してきている。今後は返却も含めて協議検討しているところである。

<並河委員>

P220、放課後児童会について、以前よりは児童の数が減っている。4年生までの拡大は出来ないのか。指導員補助者不足についてはどうか。

<社会教育課長>

4年生への拡大も検討しているが、現在の3年生まででも場所が狭く苦慮している。しかし要望があることも承知しているので将来的に考えていければと思っている。これからは地域でボランティアできる人も募っていきたい。指導員、補助の不足は今はない。

<並河委員>

4年生以上と言っても全員が希望するわけではない。アンケートも含めて前向きな検討をしてほしい。

<社会教育課長>

把握していきたいと思うので検討していきたい。

<日高委員>

P226、一般図書館経費、嘱託職員報酬に本梅分室分も入っているのか。

P 2 2 8、学校図書指導員報奨金についてボランティア分と思うが何人か。

< 図書館長 >

西部分室はP 2 2 8のアルバイト賃金が充当されている。

学校図書指導員は各校に2 1 9名。本の修理や読み聞かせ等に関わっていただいている。1回あたり5 0 0円で回数で支払っている。

< 齊藤副委員長 >

P 2 1 6、2 1 7の幼稚園経費について、私立幼稚園の園児一人あたりの職員数は。

< 教育総務課長 >

私立はわからない。

< 齊藤副委員長 >

中部保育所は職員が多く、太田保育園は園児が多い。なぜ、そんな違いが出るのか。園児を増やしてほしいし、増えなければ職員数を減らしてほしい。そのような考えはあるのかどうか。

< 教育部長 >

どちらも保育園なので直接担当ではないが職員配置の基準があり、何歳児に何人という風になっている。幼稚園でも4歳児は児童3 5人までは1人で受け持つという基準があり、それに基づいている。公立2幼稚園の園児数は減ってきているので統廃合により効率的な運営に努めていきたい。

< 堤委員長 >

P 2 3 4、新資料館についてどういうメンバーの人が検討しているのか。

P 2 4 1、国際球技場広場と野鳥の森について、賃借料のトータルはH 2 3末でいくらになるのか。山林でありながらなぜこんなに単価が違うのか。不動産鑑定もとってきっちりすべきである。買取りも含めて考えていくべきではないか。

< 文化資料館長 >

H 2 2からスタートしH 2 7までに構想を立てる。今は一般市民からざっくばらんに意見要望を聞いている。来年度、再来年度からはメンバーをそろえて検討し構想を練っていきたい。

< 教育部長 >

以前から引き継いできた単価であるが他に比して高い。国際広場球技場は3 3 0円/坪。野鳥の森は1 6 8円/坪で昨年の再契約時に見直しを図り、1 6 8円まで下げてきた。この土地をどうしていくかであるが、国際広場はテニスコート等一定の利用がある。野鳥の森は返却を視野に入れて3年の契約としている。ご指摘のとおり課題であると思っており見直しを図っていきたい。賃借料は、H 2 ~ H 2 3の合計で約6, 0 3 0万円、面積は3 5, 3 5 6 m²。

< 堤委員長 >

市の貴重な財源であるので少しでもコストが下がるよう慎重に考えていただきたい。

これで、全ての質疑を終結する。

(教育部退室)

~ 1 6 : 4 4

< 堤委員長 >

長い間、お疲れ様であった。月曜日からの日程説明を事務局から。

< 事務局 >

日程説明
< 堤委員長 >
本日はこれで閉議する。

16 : 47 閉議